



株式会社 辰弥（金属製品製造業）

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
川端 順市

鋼材加工を通して、すべてのお客さまの成功を支える

株式会社辰弥は、1990年の創業以来、常にお客さまに満足いただける製品を造ることに全力を注いできました。現在は大型建築物の梁や柱部材の加工を中心に展開し、確かな品質でお客さまの事業を縁の下から支えています。

大阪府南部に製造拠点を置く企業として、積極的な設備投資により地元での雇用を創出し、地域経済の発展に寄与するとともに、会社の財産でもある社員の成長や更なる待遇改善も目指してまいります。企業、社員、地域のより良い未来を創るために常に挑戦を続け、全社員で100億円達成を目指します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

工場増設および設備拡充、新規事業領域への参入により、年率18.5%の成長を維持し、2034年の売上高100億円達成を目指す。大型物件の構造一括受注が可能な体制の整備や工場のDX化、新規事業領域への参入を進めることで生産性を高め、高付加価値型ファブリケーターへの転身を目指していく。

課題

- 生産能力の向上（受入キャパシティの拡大）
- 生産能力向上に伴う人材確保
- 大型物件の構造一括受注のための営業力強化
- 生産性を高めるための工場におけるDX推進
- 新規事業（DX化推進）に係る体制整備、DX人材の確保・育成

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

売上高100億円達成を目指し、以下の手段を講じる。

- 工場面積を拡張し、生産能力を高める
- 大型物件の構造一括受注が可能な体制の整備（Hグレード取得済）
- 梁部材中心の加工から、柱部材加工のウエイトを高める
- 材料調達比率を高め、売上および利益率の向上を図る
- 鉄骨加工業のDX化推進に係るソフトを新たに開発して工場の生産効率を高めるとともに、鉄骨ファブリケーター向けのシステムを販売していく

実施体制

経営陣によるリーダーシップ、トップセールスの下、各部門が連携して事業拡大を目指す。

- 中小路工場敷地内に、新工場建設および最新設備を導入することで生産能力を1.4倍程度に高める（2ライン新設）
- 地元や技能実習生を中心に20名程度を採用し、現場リーダーによるOJTを中心に育成を実施
- 新規事業開発部を設立し、実務の分かる開発チームを設置し、鉄骨ファブリケーターが本当に求めているソフトを開発する



主力製品（重量鉄骨の加工）

- 本社所在地：大阪府高石市綾園6-23-23
- 事業概要：事業用金属製品製造、土木工事・建築工事等
- 常時使用する従業員：63名（2024年9月期）
- 現在の売上高：19億円（2024年9月期）
- 法人番号：7120101021075
- Web：https://www.tatsumi-kk.jp/

売上高100億円実現に向けた4つの取組

1. 生産能力の強化

- 2棟5ラインから成る中小路工場の敷地内に、第3工場新設および最新の設備を導入することで年間生産能力を約40%向上させる
- 新工場には柱部材の加工ラインを2ライン整備し、14名の雇用を創出。生産量増加に伴い、関連業務の人材を6名程度雇用することで、増産可能な体制を整備する
- 主力の梁加工に加え、柱加工を強化することで、大型物件の構造一括受注体制（以後、一括受注）を整備する
- 当社の強みである一貫生産体制（図面作成から加工、塗装、出荷までをワンストップ）と生産能力向上の相乗効果で、売上増加を目指す

2. 商流の拡大

- これまでは鉄鋼商社またはH,Mグレードのファブリケーター経由の受注がメインであったが、Hグレード取得（2023年12月取得）および一括受注可能体制を整備することで、一括受注割合30%を目指し、増収増益を図っていく
- メインの梁部材生産を維持しつつ、柱部材の生産能力を向上させることで、お客さまの多様かつ複雑なニーズに対応できる体制を整備
- 当社は材料を持たずに加工のみを行う割合が高いが、工場面積拡大（150%増）に伴い、自社で材料を調達して加工する割合を高めることで、売上増加を図っていく

3. 新規事業領域への参入

- 自社のDX推進ノウハウを活かし、新規事業開発部門を起ち上げる。鉄骨加工業の業務DX化推進に寄与するソフトを開発し、自社の業務効率化 → 他の鉄骨ファブリケーターへの販売を目指す

4. 効率的な人材育成と人材確保

- 2027年頃までにインドネシア支社を設立。現地で製図人材を育成してから国内で雇用することで、人材確保と効率的な人材育成を目指す

